

# 「(仮称) 道の駅姫路」の夢を語るアイデア会議 開催記録

— 姫路に訪れた場合に必ず行きたくなる道の駅を考えよう! —

## 1. 開催概要

○日 時：令和3年（2021年）6月23日（水）9時30分～11時10分

○場 所：姫路市役所 10階第四会議室

○参加者：16名（道の駅に関心の高い市民、市職員）

\*その他運営等

- ・姫路市道の駅アドバイザー（一般財団法人地域活性化センター吉弘新事業企画室長）
- ・一般財団法人地域活性化センター（北川副参事）
- ・姫路市 産業局 商工労働部 道の駅推進室（森、森川、金井）
- ・(株) 地域計画建築研究所（アルパック）（委託事業者）（原田、武藤、浅田、新開）

○プログラム：

開会

- 1 はじめに（趣旨説明）
- 2 前提条件（基本構想）の共有
- 3 アイデアの語り合い【グループ別】
  - ・はじめに、参加者の紹介
  - ・テーマ①：「旅先等でこれまでに行ってよかった道の駅、その理由」
  - ・テーマ②：「姫路を来訪した人（観光客）が、ぜひ立ち寄りたくなる道の駅とは」
- 4 全体での共有

閉会

○開催の様子：



## 2. 開催結果（参加者の意見・アイデア）

### ●地域の農業(また魅力や特徴)を生かす

- ・地元で「二条大麦」を生産しているので、麦茶、パン、地ビールなど特産品化してはどうか。
- ・農業体験を受け入れられるための設備を整備してほしい。  
⇒シャワールーム、お米をかまどで炊く(食べられる)など
- ・加西までコウノトリが来ている。コウノトリとの共生は農作業への負担があり、みんなで手伝う。  
⇒「農作業体験」として企画する
- ・地元では、以前より「田んぼに入るプロジェクト」を行っており、「田んぼラグビー」をやってみたい(地元で受入意向あり)。
- ・子どもたちに稲刈りや藁を使ったしめ縄体験などができるようにしてはどうか。
- ・最近小学校で校外学習が増えており、子どもを通して親に情報が伝わることもある。道の駅でも地元向けの体験メニュー(稲刈りや藁を使ったしめ縄体験など)を用意し、校外学習などで利用できるようにしてはどうか。
- ・天川はホタルが見られるのが魅力の一つである。「ホタルが観れる道の駅」としてはどうか。
- ・天川沿いの土手に桜を植えて散歩やレンタサイクル等ができるようにすれば、新たな名所になるのではないか。
- ・地元では桃を作っているの、販売や体験に活かさないか(観光農園が人気と聞いている)。

### ●そこにわざわざ出かけたくなる、目的地となる道の駅

- ・「泊まれる道の駅」にする。車中泊のサポート施設(シャワー、温浴施設等)、テント、キャンピングカー、グランピング等。
- ・ランドマークにもなり、市内展望もできる回転タワーや展望台。姫路城や夜景が眺められる。

### ●予期せぬ出会いがある道の駅

- ・人がいるインフォメーション機能(コンシェルジュ)は重要。知らない土地に行くといつい地元の人と会話したくなる。
- ・その日の花や場所の見ごろ、催しなどここだけ・その日だけの情報を教えてくれる。
- ・地元の人との会話ができる。
- ・週末にはキッチンカーやマルシェが来る。

### ●ゆっくりくつろげる場所

- ・景色がよくてゆっくりくつろげる芝生広場。
- ・いろいろな種類のベンチがたくさん配置、リクライニングチェアの貸し出し 等。

### ●地元との連携

- ・地元で田舎料理を作っていたり提供してもらってはどうか。
- ・トイレの清潔さは立ち寄りの有無にかかわる。

## ●道の駅の利用目的に特化

- ・車中泊が増えているが、朝利用できる施設が少ない。姫路にはモーニングに通う文化があるので、道の駅で提供できれば、地元の方も観光客の方にも利用してもらえないのではないか。
- ・ランニングやサイクリングなどのスポーツ人口が増えている。姫路城のあたりはランニングコースがワンパターン化しているが、道の駅にコインシャワーや着替えブースを設置すれば、新たなコースとして利用されるかもしれない。
- ・オブジェやスイーツなど、インスタ映えするものがあれば若者を集客できるかもしれない。
- ・全国でも事例がないが、夜遅くまで利用できる道の駅があってもよい。お酒の提供等課題はある。

## ●情報発信

- ・姫路市内を効率よく回ってもらえるよう、道路や施設の混雑状況を案内してはどうか。
- ・姫路のマニアックな場所も紹介し、城以外の姫路も回ってもらえるようにしたい。
- ・姫路の情報を小出しにすることで、何度も足を運んでもらえるようになるのではないか。
- ・キャンピングカーの人はノープランの人が多いため、インフォメーション機能は重要。

## ●姫路文化の発信

- ・文化を発信している道の駅は少ないのでは。
- ・姫路のイメージは、「灘のけんか祭り」、「革製品」が全国的にも有名。これらが発信できないか。
- ・「播磨名所めぐり」の歌詞を活用できないか。  
⇒22曲あり、播磨の魅力が伝えられる。スタンプラリー(QRコードでデジタル化)など
- ・「革製品」は、作れる体験が楽しく、持って帰れる、オリジナルであることで思い出になる。  
⇒体験時間に応じて3種類ほど体験メニューがあればよい  
⇒皮革のキーホルダーなど、予約不要で、短時間で体験できるものがあれば利用しやすい。また、体験に併せて周辺の工房も案内できるとよい
- ・「木工体験」は地域性が出やすい。地元の方が教えてくれると魅力がでるのでは。
- ・「竹」も活用してはどうか。竹細工があってもおもしろい。

## ●飲食

- ・シーズン限定の商品(ソフトクリーム、たけのこご飯など)は人気が出るのではないか。
- ・若者、特に女性に人気のあるスイーツを置くべき。
- ・ソフトクリームは必須アイテム。かき氷もほしい。
- ・姫路らしいソフトクリームは、たけのこ、ゆず、れんこん、そば、いちご、あんこ(御座候)、姫路城の形のカップ、和菓子屋とのコラボ。
- ・「気軽に」がポイント。インスタ映えするようなオシャレなカフェは、雰囲気はよいが、一方で入りにくい一面がある(地元向けにはなりにくいのでは)。  
⇒ゆったりとくつろげる、その場で食べてもよいし、テイクアウトもできるぐらいの雰囲気がよい。
- ・コーヒーや紅茶に加えて、「日本茶」があるカフェが嬉しい。

## ●土産

- ・姫路の土産が全てそろっているとよい。姫路にしかないものを販売してほしい。
- ・地元の酒(40種類全て)の飲み比べや、お菓子の試し買い(お試し価格での提供)をしてはどうか。
- ・地元産野菜も、シーズンごとに特徴がある(たけのこ等は有名)。野菜だけでなく、他の商品もシーズンごとに違う商品があるとよい。
- ・ご当地はもちろん、姉妹都市(鳥取市、松本市など)の人気物産を販売。先方でも姫路の人気物産を販売してもらう。

## ●アウトドア

- ・「たき火」は需要がある。コロナ後もキャンプは人気が続くだろう。たき火ができる場所は少なく、薪とともにスペース貸しをしては。一晩中眺める体験(火を使う点で地元を受け入れられるか)。
- ・キャンプができるスペースを作っておけば、防災対策にもなる(災害時に活用できる)。
- ・姫センの帰りにキャンプをするなど、ゆっくり過ごしてもらえるのでは(姫センのあとに、疲れているなか帰るのはしんどいだろう)。

## ●動物と道の駅

- ・ドックランは、犬を飼っていない人からすると、嫌悪感まではないが、恐怖心、不安感もある。  
⇒フェンスで囲う、駐車スペースを別に分けるなどの工夫がほしい。けがやトラブル防止にもなる
- ・動物に触れあえるコーナーがあれば面白い。ヤギ、ヒツジ、アルパカ、モルモット、ハムスターなど。
- ・ヤギは、地元農家にもレンタルしてはどうか。草刈りが楽になる。  
⇒レンタル時は、「ただいまレンタル中」と案内を出す。あるいは、地元農家の農地まで見学
- ・ヤギは、乳しぼり体験などもできるのでは。
- ・市川町瀬加には羊がいるアイスクリーム屋がある。

## ●地域の現状を踏まえる

- ・候補地周辺には集客拠点がないので、魅力をつくる必要がある。長期的に利用される場所を目指したい。

## ●コインランドリーの設置

- ・旅行が終わり、山陽道・播但道に乗る前に、旅行でたまった洗濯物をして帰ってもらう。その間に飲食・買物をしてもらえる。帰って洗濯物をしなくていいのは大変助かり、旅の疲れも減る。
- ・セントラルパークのプール帰りの家族が帰りに寄り、水着などの洗濯をしてもらう。旅行帰りと同様、飲食・買物がしてもらえる。
- ・地元住人の活用も期待できる。

## ●貸し教室の設置

- ・子育てが終わった世代(特に主婦)は、時間もあり、今までしてきたことによる技術がある。例えば、料理、お菓子作り、ネイル、手芸、プリザーブドフラワーなど。単発で教室を開くことができたらいいな、と思っている主婦向けの貸し教室を設置してはどうか。

●その他

- ・平日は主婦層がメインのお客さんになるので、子どもが遊べる場所があれば、親子や三世代でも来やすくなる。
- ・遊び場として、子ども用の芝すべり、ローラースケート場など。
- ・駐車場はアスファルト一面ではなく、グリーンや木立があり、夏の暑さにも対応。
- ・緑や芝生は重要であるが、メンテナンスが簡単なものがよい。
- ・ボルダリングができるスペースを作ってはどうか。